

富山県立大学

地域協働

CBL

NEWS

VOL.14-15

[CONTENTS]

■ピックアップ!			
■2023年度活動報告	2	1	
■学生団体活動紹介①	9	面	
■地域志向取組み	10	面	
■成果発表会出展一覧	11	面	
■学生団体活動紹介②	12	面	
■コラム	13	面	
	14	面	
	15	面	
	16	面	



PICK UP!
令和5年度成果発表会開催!

前期

令和5年7月20日(木)、21日(金)の2日間にわたり、前期成果発表会を開催しました。各ゼミや学生団体など9団体が前期に取り組んできた活動を、スライドを用いた口頭発表にて、その成果を報告しました。また発表スライドを抜粋したポスターを8月10日(木)まで掲示しました。



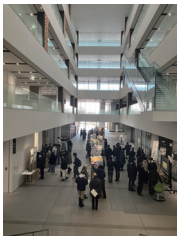
参加者からは「専門外の学科の研究にもつながるような話が興味深く、聞けてよかった」「地域と連携して取り組んでいる研究や調査がたくさんあって、活性化したいという強い思いを感じた」「自分の地元にも目を向けてみたいなども感じた」などの声が寄せられました。(一覧は12面へ)

後期



令和6年1月25日(木)、26日(金)に、後期成果発表会を開催しました。後期はポスターセッションによる発表形式で、各ゼミや学生団体など17団体がその取り組みの成果を報告しました。発表ポスターはそのまま2月9日(金)まで展示し、多くの方にご覧いただきました。今回からWebへのポスター掲載も行い、リアル会場に合わせ2月9日(金)までの期間限定で公開しました。

参加者の感想として「色々な活動を地域と協力して行っていて良かったと思う」「どのゼミもさまざまな視点から地域を盛り上げる事業や成果を発表していて興味深かった」「地域の繋がりの大切さをとても感じることができた」などがありました。(一覧は13面へ)



PICK UP!
2つの学生団体が広報アンバサダーに就任

富山県農村振興課では、若者の都市農村交流を促すため、効果的な情報発信について検証を進めています。その一環として、大学生などの若者が広報アンバサダーに就任し、実際の農村活動体験を通じた経験や、若者の視点とアイデアに基づいた、新しい広報活動を提案する取り組みが始まりました。本学からは「地域協働研究会 COCOS」とDX教育研究センターの学生団体「POLYGON」がこの事業に参加し、広報アンバサダーとしての活動に挑みました。それぞれに農村体験に出かけ、地元の住民と直に触れ合いながら体感した魅力を、どのように発信したら良いのか思案しました。活動を通して得られた成果は、年度末に県に提案を行いました。



2023年度前期 活動報告

とやまでSDGs…なんとSDGsパートナーから学び、伝える

中村秀プレゼンテーション演習

南砺市では、SDGsを取り入れたまちづくりに賛同し、自分ごととしてSDGsのゴール達成に繋がる取り組みを市内で実施する企業、団体、個人を「なんとSDGsパートナー」として登録しています。中村秀プレゼンテーション演習では、南砺市から「なんとSDGsパートナー」2団体(ふくみつつ、得能建設工業株式会社)への取材依頼を受け、PECとやまの支援のもとWeb記事の作成に取り組みました。

2団体への取材でさまざまなSDGsに関する取り組みを知ることができました。近年、人と人の繋がりが希薄化しSDGsへの関心や正しい知識の普及が進んでいない現状があるなかで、求められる団体や活動、自分個人でできることを考える良い機会となりました。



射水市の小学校を対象としたドローンプログラミング体験教室の拡充

岩井プレゼンテーション演習

岩井プレゼンテーション演習では、小学生のためのドローンを活用したプログラミング体験教室の教育モデルの確立を目標としました。本体重量80gのドローンとタブレットを用い、マニュアル飛行とプログラミングによる自動飛行から成る体験教室を企画しました。前期は射水市内の4つの小学校で5・6年生を対象に実施しました。アンケートから教育効果を集計した結果、ほとんどの小学生がプログラミングに関心を持ち、発展した課題に挑戦したいようです。また、3年次ゼミ生3名と岩井先生が教えた場合と小学校の担任の先生が一人で教えた場合で実施状況を比較しました。担任の先生だけでは子ども達の補助が間に合わず、ある程度の指導員が必要だと分かりました。今後は大規模な小学校での実施や大学生が協働できる仕組みを提案します。



富山県における生物多様性について考える

孫田トピックゼミ

孫田トピックゼミでは、富山県の生物多様性を考える実習を行いました。種や遺伝子、生態系の多様性の学びを通じて、人々の暮らしは生物多様性によって支えられていることをあらためて実感しました。身近な事例を知るため、富山県で行われている保全活動を調査し、富山市ファミリーパークではライチョウ、富山県中央植物園ではエッチュウミセバヤ等の域外保全について話を聞きました。また、立山でのフィールドワークを通して、域内保全や登山者による保全のネットワークについて学びました。保全活動への参加のみでなく、生物多様性について学ぶことや保全活動の発信などを通じ、保全のバトンを次の世代につないでいくことが重要なことと考えに至りました。

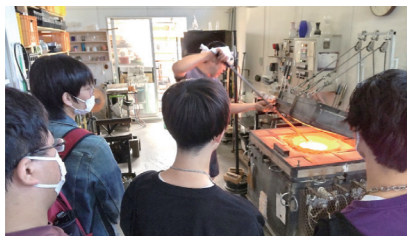


富山ガラス風鈴の音色の調査

寺島専門ゼミ

寺島専門ゼミでは、富山の観光資源の一つである「ガラス」について、風鈴の音が異なる原因を調べ、目的として調査を行いました。

実際にガラス工房へ赴き、ガラス風鈴づくりを見学しました。完成した風鈴を鳴らし、形や見た目のわずかな変化により、音が全く異なることを知りました。はじめに、ガラス風鈴の形状が独特で製作時に差異が出やすいことが、形と音に差が出る原因だと仮説を立てました。そして、実験やパソコンでの解析を行い、形に依存して音の高さと強さが変化することに気がつきました。今後の展開として、形状と振動の関係性をさらに調べ、より効率的なガラス風鈴の音づくりを確立していきます。



富山市中心部の市街地の活性化について

濱トピックゼミ

濱トピックゼミでは、富山市西町商店街振興組合と協働し、富山市中心部街地の活性化に取り組みました。西町商店街のお店の魅力をインスタグラムルールを用いて発信し、結果について分析を行いました。

4月には、富山市中心部の歴史と西町商店街の沿革・概要等について共有し、大和富山店SNS担当の戸田未来さんよりインスタグラムルールの編集・投稿方法についてご教示いただきました。5月には、本企画に参加いただく各店舗からお話を伺いました。6月には、各店舗に取材を行い、ルール動画を作成、SNSにアップロードしました。その後SNSの反応について分析を行い、改善点を検討しました。地域の方との交流を通じて話し方や接し方において成長を感じることができるとともに効果的な動画を発信することの難しさを学びました。

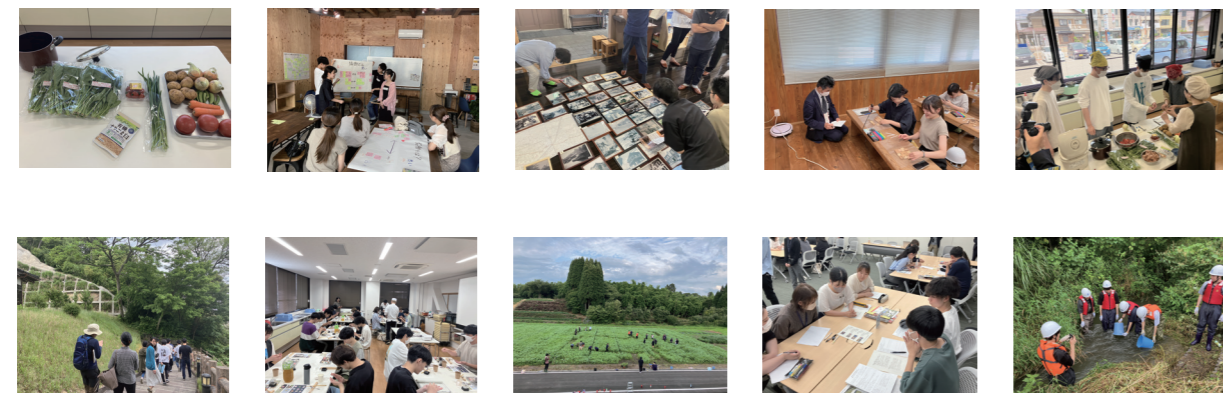


学生団体POLYGON 地域協働活動報告

POLYGON

POLYGONは、専門的な知識や高度なデジタル技術を持つ人材の育成を目的とした学生団体です。約50人のメンバーが所属し、企業や地域との協働を通じて、DX推進や社会課題の解決を行っています。

女子ハンドボールチームアランマーレとの連携では、コロナ禍のパンブリックビューイングを盛り上げるために、応援メッセージ投稿システムの開発などを行いました。また、北日本放送のイベント「いっちゃん！リレーマラソン」での連携では、大会参加者が増加する中、イベントに参加した思い出を印象的なものとするために、コース内にカメラを設置し、特定のポーズを認識して写真を撮影するシステムを開発しました。家族連れ、チーム参加のメンバーなど多くの参加者に利用していただきました。



COCOSとは

COCOSとは、2014年4月に県立大が設置した学生団体です。COCOSの名前の由来は、COC (Center Of Community : 「地(知)の拠点」※) とOS (Operating System : 基盤) で、大学が進める地域協働の学生の主体として活動しています。地域の課題解決、魅力の発見、PRを行うため、地域の方々と対話や交流を重ねながら一緒に活動し、一緒に地域を盛り上げようとしています。

学内では、成果発表会の運営や地域協働の授業や取組みを支援するCOCTA (Teaching Assistant) も担っています。

※ 2013年から本学が採択された文部科学省による「地(知)の拠点整備事業=COC事業」より



六渡寺海岸の漂着ゴミ組成調査と
その発生源における今後の対策

久加トピックゼミ

久加ゼミでは富山県の環境問題を、六渡寺海岸の漂着ゴミの組成調査とその発生源の視点から考えました。漂着ゴミの特徴を、周辺海流調査、他地域の河川漂着ゴミとの比較、流入河川の調査、流域ごとの属性とプラスチックごみに対する動向調査これら4つの方法で明らかにしました。学生自らが行った現地調査(気象・地理条件、海岸状況などの観察など)一つのテーマに対して非常に多角的な視点から分析しました。今回の調査によって、環境問題に向き合うために、近所の河川の清掃活動や、ごみの不法投棄を規制することなどが大切だと分かりました。



水文観測の必要性

吉見トピックゼミ

水災害から人々の生活を守るために河川管理者は「水文観測」を行っています。河川管理者や自治体は、水文観測により得られるデータに基づいて、避難指示等を出し人々を救うことができます。本トピックゼミでは、IoTツールの一つであるifLinkを活用し、水文観測における課題解決に取り組みました。ifLinkとはIFとTHENを組み合わせたIoTツールです。既存のデバイスを用いて即座にIoTを活用した課題解決を実現できるのがifLinkの強みです。今回は、ifLinkを活用して浮子法の測定労力軽減に向けたアイデア発想を実施しました。学生同士で自由にアイデアを出し合い議論することで、どのようにすればこれからの災害から身を守ることができるか理解を深めることができました。



富山県立大学のブランディング
— 実感の湧く情報発信 —

清水教養ゼミ

清水教養ゼミでは、北陸博報堂と協働し、デジタルデータを活用した富山県立大学のブランディング試作の立案に取り組みました。地域協働授業成果発表会では、北陸博報堂から金賞を受賞した「チームよん」が「実感の湧く情報発信」をコンセプトに掲げ、本学HPの改善・集客案について発表しました。本学には情報工学部新設など、十分な魅力があり、それらの良さを活かすべく、受験生を中心としたユーザー目線での情報発信で県立大ブランドの普及を目指しました。高校時代に大学を調べるために利用したツールをR5年度入学生180人に調査したところ、83.6%の学生がHPを利用するという結果が得られたため、HPの分析・改善策の考案を行いました。新たなコンテンツとして、過去問解説動画、受験日程の掲載案が挙げられました。



地域で学ぶフィールドワークの様子①



【神通川】



【立山・美女平】



【富山市中心商店街】

2023年度後期 活動報告

富山県の水の文化について

— 黒部市を中心に

金城トピックゼミ

金城トピックゼミは富山県の水の文化を知ることと富山県の魅力を知り、発信することを目標に活動しました。富山の名水で有名な黒部市の皇国晴酒造株式会社と八尾市の玉旭酒造有限会社を訪問し、水とお酒に関することを学びました。2023年11月には黒部市巡検を行い、午前には生地の清水めぐり、午後は2班に分かれて計画していた場所を訪れました。富山の水を使用したスイーツや足湯温泉を堪能し、トロッコ列車では自然も楽しむことができました。クリスマスマーケットinTOYAMAでは作成した2本の動画の上映、着ぐるみで会場を盛り上げ、ブースの手伝いも行いました。学生は、ゼミを通して水の文化に実際に触れ、富山県の魅力を肌で感じました。



富山市中心市街地の活性化
西町の歴史と魅力を発信する

濱トピックゼミ



濱トピックゼミでは事前学習等の商店街の実態把握を通して、街の歴史や魅力を発見し、商店街の活性化に結びつくようSNSによる情報発信を行いました。10月にリアル作成学習会を行い、動画制作のノウハウを学びました。11月には西町の歴史学習会やお話を伺う会を通じて西町について知見を深めました。また、12月にはそれぞれのテーマに分かれ取材・撮影を行いました。1月には作成した動画を実際にSNSにアップロードしました。この活動を通じて西町の歴史や産業の繋がりを知ることができ、新たな発見と驚きを得る機会になりました。また、西町の多様な魅力を深く理解する貴重な機会になりました。

ペットのための持続可能な
エンディング事業の提案

岩井トピックゼミ



トピックゼミでは、ペットを偲ぶための持続可能なエンディング事業を県内企業に提案しました。村山製作所が提示された事業の中から、ペット用骨壺のデザインに取り組みました。村山製作所が求める仕様は、金属材料を使い、彫り込みまたは浮かし彫りができるものです。メンバーは、自宅に飾るか埋葬するかを考慮し、骨壺の形状、サイズ、手に持った際の質感などをデザインしました。お城型、花型、ネコ型、鳥型などのデザインに加えて、骨壺と花瓶を組み合わせたリ、蓋の形を選べたりするアイデアなどを提案しました。村山製作所からは、若い大学生の斬新な発想に喜ばれ、製作可能なものは試作したいと好意的な感想が述べられました。今後は、試作品の製作と評価を課題に取り組んでいく予定です。

アニメとマンガで地域を学ぼう!

大石トピックゼミ



大石ゼミでは、いわゆる《聖地巡礼》現象で取り上げられるようなコンテンツが、どのようにして地域と繋がっているのかを探ることを目的として活動に取り組みました。今年度は、12月17日(日)に高志の国文学館で行われた県立大学とのコラボ企画に参加しました。学生たちは「藤子不二雄A先生」「おおかみこどもの雨と雪」「Another」「ゆるゆり」「ミステリと言う勿れ」の5チームに分かれ、富山に縁(ゆかり)のあるアニメやマンガを探求しました。実際に聖地となった地域を訪れ、作品で使われた場所の写真を撮影しました。それぞれのチームがクイズや自分の体験談などを交えつつ発表を行いました。学んだことへの理解を深めました。

古写真カラー化で「まちの記憶」を鮮明に

小林教養ゼミII



小林教養ゼミIIでは、身近な地域の「まちづくり」について考える活動を行いました。地元見学として、FMいみず、お茶の藤岡園、竹内源蔵記念館、十社大神、射水市新湊博物館などを訪問し、小杉への理解を深めました。

また、小杉まちづくり協議会の「古写真プロジェクト」と協働し、今は見られなくなった風景や往時がしのばれる景観を現代に伝える「古写真」をカラー化しました。カラー化の際には、人工知能を活用した市販のソフトを用いました。生き生きとした風景を多くの方に楽しんでもらいたいという、射水市役所で展示も行いました。

古写真をきっかけに、まちづくりへの理解を深めることができました。

ラジオ音楽番組の協働制作

井戸教養ゼミII



井戸ゼミでは、地域に密着した情報や災害時の災害状況などを伝えるコミュニティラジオの役割を学ぶとともに、コミュニティラジオの力を向上させることを目的に、エフエムいみずと協働したラジオの音楽番組制作を、平成26年度より継続しています。今年度は6月にスタジオを見学し社長の講話を聞き、音声の編集作業体験もしました。後期はグループごとに企画・制作準備を進め、11月から12月の4週にわたって各グループで収録を行い、番組を制作しました。一つの企画に向かって仲間や地域の方と協働し、それを成し遂げることで様々な学びを得ることができました。さらに、パーソナリティの体験を通して、コミュニケーションに大切な要素である表現や伝える技術などを学ぶ機会となりました。

言語学習支援ボランティア(特製英語トランプの作成)および児童英語教室の実施

山崎教養ゼミII



「英語の音を楽しむ」ことを基本的なテーマとして掲げる山崎ゼミでは、「地域のために何ができるのか?」という疑問から太閤山児童館との協働で、「言語学習支援ボランティア」を実施し、小学校で実施されている英語教育への「橋渡し」となるように尽力しました。今回のプロジェクトでは、特製英語トランプを作成し、児童の皆さんに贈呈しました。そして、児童英語教室で英語トランプを用いて実演や発音指導、伝言ゲームや宝探しゲームを行い、音声も意識しながら英語を学習しました。ゼミ生からは「児童の皆さんが笑顔でとても楽しそうに参加している姿に感動した」という意見が寄せられました。「言語学習支援ボランティア」が、児童の皆さんにとって英語の「音」にふれ、日本語の音との違いなどを理解しながら、英語を習得するひとつの機会になることを期待しています。

射水市の小学校を対象としたドローンプログラミング体験教室の拡充

岩井専門ゼミ



小学校でのプログラミング教育が始まってから3年が経ちましたが、ロボットやドローンの活用例がほとんどありませんでした。そこで岩井専門ゼミではドローンを活用したプログラミング体験教室を企画し、射水市内の小学校で実施してきました。今年度は教育モデルの確立し、射水市内の小学校で5・6年生を対象に8回実施しました。体験教室は、コントローラを使ってドローンをマニュアル操作したり、プログラミングをして自動飛行させたりする内容です。小学生からはとても楽しかったという感想が多く寄せられ、難しい課題に挑戦したいという声や、将来プログラミングを仕事にしたいという意欲的な声もありました。今後は、少数のスタッフで実施可能なプログラミング教室のモデルを確立し、射水市教育委員会と協力しながら大規模校への展開を目指して活動していく予定です。

クリスマスマーケット in TOYAMAを開催して

金城教養ゼミII



金城教養ゼミIIでは、前期に引き続き12月2日(土)に富山駅南北自由通路で行う第2回クリスマスマーケット in TOYAMAの開催を目標に、ドイツの文化や食文化について学びました。イベント当日は、富山の和菓子と伝統工芸品や、ドイツの小物と焼き菓子を販売し、ドイツの遊びであるアヒル釣り、ゆるキャラ、飾りつけも担当しました。学生からは「たくさん年齢層の方と関わっていい機会だと思った」、「土人形や和紙のことを知れた」、「事前に情報をもっと集めるべきだと感じた」などの意見が寄せられました。前期に行った和菓子作りやドイツ菓子の課外授業を含め、様々な経験から座学だけでは学べないようなことを楽しく学ぶゼミとなりました。

とやまでSDGsパートナーからなんとSDGsを学ぶ、伝える

中村秀専門ゼミ



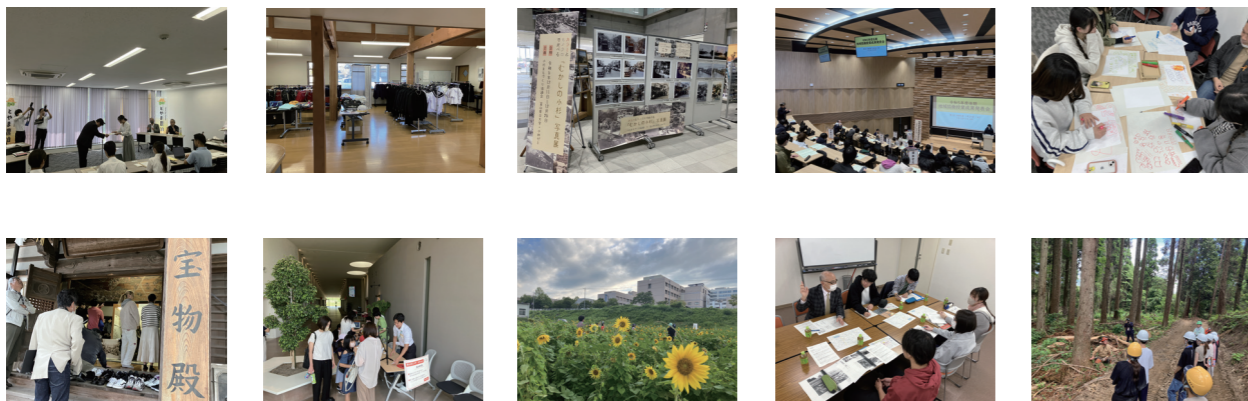
中村秀専門ゼミでは、SDGs(持続可能でより良い世界を目指す国際目標)の達成を目的としたローカルプラットフォームFOCUSとやまと南砺市と協働して、なんとSDGパートナーの「安達建設株式会社」、「フアニーズキッチン」を取材としてWeb記事を作成しました。実際に安達建設株式会社の方にインタビューし、もともと取り組んでいることがSDGsにつながっていることがわかりました。また、フアニーズキッチンへの取材を通して、SDGsについて発信する若者が増えればSDGsに関心を持ち取り組む人が増えること、そのために若者が自分の考えを積極的に発信するべきであることを学びました。

ゲームで学びを楽しくする「宿題クエスト」

清水教養ゼミII



清水教養ゼミIIでは、ゲーミフィケーションにより積極的学習を補助するツールを開発しました。富山市立呉羽小学校の6年生とのグループディスカッションやKJ法などを通じて浮かんだ課題と向き合い、「やらされる勉強」から「やりたい勉強」に変える動機付けとして、宿題をゲーム化するアプリを作りました。「成長している実感がない」というコメントから、勉強時間に応じてレベルが上がるったり、アイテムをゲットできたりするようにし、勉強での成長がゲームに反映される仕組みを作りました。この結果、85.6%の小学生が勉強をやりたくなったと回答しました。勉強のゲーム化により、子供たちの学びの習慣化の実現に近づくことができました。



とやまでSDGsを考える… 子育てと生態系の視点から

中村秀卒業研究

中村秀卒業研究では、SDGs（持続可能でより良い世界を目指す国際目標）の達成を目的としたローカルプラットフォームのPECとやまと協働して、子育ての視点と生態系の視点からSDGsについて考えました。富山県で子育てするメリットのアンケートやひとり親家庭の聞き取り調査を実施し、個人の価値観や家庭により子育ての支援やニーズが異なることや、指標を作るにあたって必要なデータがないことも研究の難しさであることを学びました。また、ブラックバスに焦点を当て、外来種による被害の調査を行い、環境と経済の両立は困難であると再認識しました。持続可能な社会の実現のため、お互いの意見を尊重しつつ共存できる策が必要であると学びました。



視覚障がい者を対象とした 触れて楽しむ科学の体験

本吉専門ゼミ

専門ゼミ（知能・本吉担当）では、北陸地区の視覚に障害のある小中高生を中心に、情報活用能力育成を意識した科学体験教室「科学へジャンプ in 北陸2023」の運営管理、支援を行いました。このゼミでは、触れて楽しむ科学の体験・実習プログラムを通して、視覚障がい者の科学分野への理解促進を図ること、また、地域の核となる支援教育のネットワークを構築することの2点を目標に掲げ活動を行っています。本年度は力覚提示デバイスを用いた投げたボールの動きの触知体験、ブロックを並べてプログラミングの体験ができるP-CUBEを使った発話プログラムの作成、文章生成AI「ChatGPT」や画像生成AI「Stable Diffusion」を使った最新AIの体験、液体窒素を使った冷却実験などのプログラムを生徒たちが楽しんでおられました。



小矢部市の山間部における 大気環境観測2023

渡辺専門ゼミ

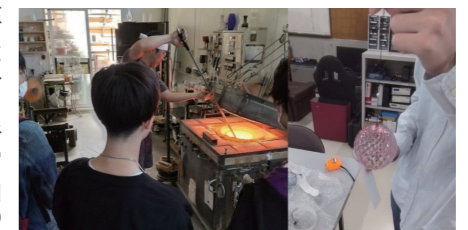
新型コロナウイルスによる中国のロックダウンの影響により2020年から2021年の一時期は大気汚染が改善しました。しかし、経済活動の再開により再び元の状態に戻ると予想されることや長期的な大気環境の変化を評価するため、渡辺研究室は小矢部市教育センター2階の理科室に観測機器を設置し、粒径別エアロゾル粒子と二酸化硫黄の濃度を測定しました。測定結果としては2020年に比べて2022年の微小エアロゾル粒子の濃度は増加しましたが、2023年では大幅な増加はみられませんでしたが、しかしながら、2023年は黄砂の影響を大きく受け山連峰が見えない日が比較的多くありました。また、二酸化硫黄濃度は2021年以降に若干増加していました。渡辺研究室では原因として工場の再稼働や火山活動による影響だと推測しています。



ガラス風鈴づくりに おける機械工学を活用した 設計支援の可能性の検討

寺島研究室

本学では県内企業・団体と機械系学生との連携によるDX教育研究を推進しています。寺島研究室では富山の名物に関するDX教育研究を考えた結果、富山ガラスに目を付けました。さらに、寺島研究室では今まで富山の音を研究してきたので、今回は富山ガラスの音に関する研究をしました。ガラスの音といえば風鈴なので、狙い通りの音をもたらし風鈴の形のデジタル設計をガラス作家の坂田裕昭先生と行いました。風鈴の形と音の関係を調べた結果、風鈴のすばみの大きさにより音が変化することが判明しました。ガラス風鈴で狙い通りの音を作るポイントも坂田先生と共有し、今後のガラス風鈴作りの一助になることができました。



DX動物園

中田・西原画像処理研究室

ファミリーパークや地域NPOと連携し、呉羽地区の魅力を生かすためのソフトウェアやハードウェアを作成することを目的に活動しました。本研究室では以前から夏に行われるファミリーパークのナイトズーで子供達に向けてイベントを行っています。今回これを「DX動物園」として拡張し、学生と連携して新たなハード＆ソフトを開発します。



今回はファミリーパーク内の自然体験センター内に常設するアトラクションを想定しています。例えば、カメラの前の顔の動きに合わせてキリンの首が動くサービスを作っていますが、これがあれば誰でもキリンになれる！また、子供達が描いた絵をプロジェクトションマッピング上で動かしたり、ファミリーパークの動物と記念写真が撮れるサービスを準備しています。

POLYGONによる 地域協働活動の報告

POLYGON

POLYGONでは、企業や行政学校との協働を通して、DX推進や社会課題の解決を行っています。今年度後期は主に4つの活動を行いました。①富山情報ビジネス専門学校との連携では、VRシステムCAVEを活用したコンテンツ作成を実施しています。②射水市内の学校の制服や体操服のリユース活動に向け、画像処理を用いた判別システムの開発を行っています。③富山県の農村地域の活性化を目的とした事業において、若者の参加を促すための、デジタル技術を用いた広報活動を実施しました。④医薬品工学科の研究室にて、試薬管理の煩雑さを解決するためのシステム開発を進めています。



自作の反射式望遠鏡で地域交流を とやまasteostarウォッチング

天文部

天文部では富山県庁環境保全課が主催する「とやまスターウォッチング」において、星の説明や天体望遠鏡の設置・解説を行ってきました。このイベントは身近な環境保全の実践やエコライフの推進を目的としています。天文部では2000年初期に制作された自作の反射式望遠鏡を用いて参加しましたが、主鏡の経年劣化に伴い望遠鏡の改修を行う必要がありました。令和5年度のイベントでは改修が間に合わずに修理前のものを展示しましたが、約100名のお客様に楽しんでいただけました。現在は大学のパステル工房で改修を行い、次年度のイベントに向けて部活動を行っています。今後も自作の反射式望遠鏡を使用して地域交流を持続していきたいです。



地域と協働する研究紹介

水災害に関する地域課題を解決する研究に従事

環境・社会基盤工学科 吉見和鉦講師

昨年は富山県でも初めて線状降水帯を観測するなど“水”に起因する災害対策は喫緊の課題となっています。この問題への対応策として、流域内の行政機関をはじめとする、ありとあらゆるステークホルダー間の境を越えた新しい統合水資源管理「流域治水」の普及が社会課題となっています。参画する研究プロジェクトでは、神通川流域をフィールドに、行政と住民や多様な関係者と科学者が、共創する取り組みが進んでいます。「流域」や「治水」を身近に感じてもらうために、研究室の学生が考えた流域について学ぶフィールドワーク、シンポジウムやワークショップなどを開催するなど多様なステークホルダーが交流する場を創出しています。富山北部高校で探究学習をする高校生とも一緒に活動しています。このように、地域が協働して、身近な水から暮らしについて考えています。

令和 5 年度 地域志向教育・研究・学生自主プロジェクト採択一覧

本学では、学生が地域と主体的に関わり、地域課題解決や学生自身の成長が遂げられる活動を推進すべく教員、学生による取り組みの支援を行っています。教育・研究・学生自主プロジェクトの 3 枠で学内公募し、採択結果は下記の通りになりました。

・地域志向教育プログラム

テーマ	代表教員
クリスマスマーケット in Toyama	教養教育 准教授 金城 朱美
視覚障害者の情報活用能力育成を意識した科学体験教室の実施と評価	知能ロボット 准教授 本吉 達郎
丘陵地区を中心とした地域での電子機器を活用した貢献	情報システム 教授 中田 崇行
地域小学生のための英語教室（2023 年度）と地域の魅力向上等を通じた国際交流	教養教育 准教授 山崎 大介
ドローンを活用したプログラミング体験教室の拡充と大規模校への展開	知能ロボット 教授 岩井 学
とやまで SDGs を考える：子育てと生態系の視点から	環境・社会基盤 准教授 中村 秀規

・学生自主プロジェクト

テーマ	学生団体・代表者
・ひまわり迷路を通じて射水市の魅力発信 ・コキアに表情をつけて植物を大切にすることを	ひまわりサークル 環境・社会基盤 4 年 三原 正尚
・ジオラマによって神通川の地形や特徴を知ってもらう ・ジオラマを通して富山市の防災意識を高める	プラモデル制作部 機械システム 3 年 名葉 浩太郎
環水公園星空観察会における地域交流の持続に向けた自作反射式望遠鏡の改修	天文部 環境・社会基盤 3 年 遠藤 心和子
旧北陸道の魅力発見及び下条川沿い小杉周辺の賑わい	地域協働研究会 看護 4 年 西本 真彩
4 面 VR システム「CAVE」を用いたコンテンツ開発による富山県立大学の魅力向上	POLYGON 情報システム 4 年 磯邊 健太

・地域志向研究

研究課題	代表教員
ため池改修事業と生物多様性保全の両立を図る手法の開発	教養教育 准教授 鈴木 浩司
とやまの音づくりプロジェクト - 富山ガラス風鈴の音色の調査・発信と環境調和型ものづくりの実現 -	機械システム 准教授 寺島 修
モーションキャプチャとダンスを組み合わせたコンテンツの開発、及びコンテンツを通じた地域交流と健康増進に関する研究	情報システム 教授 唐山 英明
小矢部市中山間部における廃校校舎を利用した大気環境観測 2023 — 大気環境の変遷の評価と地域への情報発信 —	環境・社会基盤 教授 渡辺 幸一



COCOS 活動紹介 ①

じゃがいもプロジェクト

『じゃがいもプロジェクト』は、ウクライナの食卓には欠かせない食べ物であるじゃがいもを育てることで、射水市に避難しているウクライナの方々への支援となるよう活動を行いました。植え付けから収穫まで、本学の立田真文准教授や富山情報ビジネス専門学校、旧北陸道こすぎ商盛會、三ヶ地域振興会の方々と協働して行いました。8月18日（金）にはウクライナの方にじゃがいもが届けられました。

その他の活動として、富山情報ビジネス専門学校に伺いウクライナの方々と日本語の授業を受けました。9月1日（土）にはウクライナの方を含めた富山情報ビジネス専門学校の留学生と黒部峡谷トロック電車に乗り、交流を図りました。じゃがいもでの支援を起点に、様々な方々と関わりながら活動することができました。

Cafe しえる

Cafe しえるとは富山県立大学射水キャンパスから徒歩5分、黒河の静かな住宅街にたたずむカフェです。障がいをお持ちの方とスタッフさんとともに働いています。COCOSはCafe しえるを盛り上げ、黒河地域の活性化に繋げるため、昨年度から活動を続けてきました。

昼休みのお弁当・スイーツ販売を4月25日（火）と5月30日（火）の計2回行い、販売商品のメニューの提案や販売の補助を行いました。10月21日（土）と22日（日）の大学祭では、協働して考案した学祭限定のメニューを販売しました。9月23（土）と24日（日）に行われた『旧北陸道アート in 小杉』では、カフェを運営しました。会場には、昨年の春に行った「桜祭りフォトコンテスト」の作品を飾り、Cafe しえるのスイーツを食べながら、下条川沿いの桜並木の写真を楽しんでいただきました。12月2日（土）の『クリスマスマーケット in 富山』では、Cafe しえるの焼き菓子を販売しました。これらのイベントを通して、Cafe しえるを多くの方に認知してもらえたと考えています。

今後も継続してCafe しえるを盛り上げ、更なる地域の活性化に繋がっていきます。



学生団体紹介 ひまわりサークル

ひまわりサークルでは、ひまわり畑の管理や野菜などの栽培を軸として活動しています。

今年度は4年ぶりである、ひまわり迷路に挑戦しました。コロナ禍や生育不良を乗り越え、射水市を拠点に活動する女子ハンドボールチーム「アランマール富山」と協働で取り組みました。8月5日（土）のダ・ヴィンチ祭に迷路を一般開放し、初日で100名以上の地域住民がお越しになりました。楽しんでいただくことができました。来年度はもっと難しい迷路にしたいと下級生が意気込んでいますので楽しみにしてください！



野菜栽培では、部員で自由に育てたい苗を選びお世話をしています。今年はミニトマトが甘いと好評でした。育て方を工夫することで、市販よりも美味しく実らせることができちゃいます。



このように、園芸や植物自然好きにはたまらないサークル活動をしています。私たちと一緒に迷路のようなビッグイベントに携わり、ほのぼのと野菜たちを育ててみませんか？ちなみに、乾燥に強いひまわりの水やりは要らないのでご安心を。

令和 5 年度後期地域協働授業成果発表会

令和 6 年 1 月 25 日 (木) 11 団体、26 日 (金) 6 団体がポスターセッション形式で成果発表を行いました。本学学生、教員、地域の関係者など 2 日間で 180 名ほどの参加がありました。

[第 1 日目] 1 月 25 日 (木) 13:10 ~ 14:40

- ① 「古写真カラー化で「まちの記憶」を鮮明に」
教養ゼミⅡ (教養教育センター 小林一也 教授)
- ② 「クリスマスマーケット in TOYAMA を開催して」
教養ゼミⅡ (教養教育センター 金城朱美 准教授)
- ③ 「言語学習支援ボランティア (特製英語トランプの作成および児童英語教室の実施) と地域の魅力向上等を通じた国際交流」
教養ゼミⅡ (教養教育センター 山崎大介 准教授)
- ④ 「勉強×ゲーム」で主体性を育む」
教養ゼミⅡ (教養教育センター 清水義彦 准教授)
- ⑤ 「射水市の小学校を対象としたドローンプログラミング体験教室の拡充」
専門ゼミ (知能ロボット工学科 岩井学 教授)
- ⑥ 「小矢部市の山間部における大気環境観測 2023」
専門ゼミ (環境・社会基盤工学科 渡辺幸一 教授)
- ⑦ 「とやまで SDGs : なんと SDGs パートナーから学び、伝える (その 2)」
専門ゼミ (環境・社会基盤工学科 中村秀規 准教授)
- ⑧ 「とやまで SDGs を考える : 子育てと生態系の視点から」
卒業研究 (環境・社会基盤工学科 中村秀規 准教授)
- ⑨ 「DX 動物園」
中田西原画像処理研究室 (情報システム工学科 中田崇行 教授 西原功 講師)
- ⑩ 「氷見市大浦大池の改修事業と生物多様性の保全の両立を図るために」
鈴木浩司 准教授 (教養教育センター)
- ⑪ 「COCOS の活動紹介」

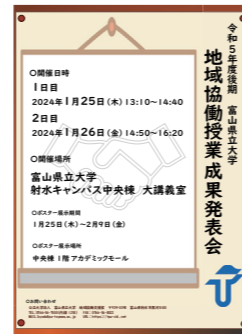
地域協働研究会COCOS

[第 2 日目] 1 月 26 日 (金) 14:50 ~ 16:20

- ① 「ペットのための持続可能なエンディング事業の提案」
トピックゼミⅡ (知能ロボット工学科 岩井学 教授)
- ② 「富山県の水の文化について - 黒部市を中心に」
トピックゼミⅡ (教養教育センター 金城朱美 准教授)
- ③ 「ガラス風鈴づくりにおける機械工学を活用した設計支援の可能性の検討」
寺島研究室 (機械システム工学科 寺島修 准教授)
- ④ 「氷見市大浦大池の改修事業と生物多様性の保全の両立を図るために」
鈴木浩司 准教授 (教養教育センター)
- ⑤ 「POLYGON による地域協働活動の報告」
学生団体 POLYGON
- ⑥ 「COCOS の活動紹介」
地域協働研究会COCOS

ポスター

- 「富山市中心市街地の活性化について — 西町の歴史と魅力を発信する :Instagram “リール” を用いた情報発信」
トピックゼミⅡ (教養教育センター 濱貴子 准教授)
- 「視覚障害者の情報活用能力育成を意識した科学体験教室の実施と評価」
専門ゼミ (知能ロボット工学科 本吉達郎 准教授)



— 出展ポスター例 —



令和 5 年度前期地域協働授業成果発表会

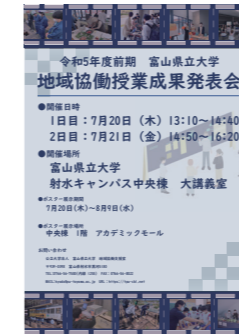
令和 5 年 7 月 20 日 (木) 5 団体、21 日 (金) 6 団体が口頭発表形式で成果発表を行いました。本学学生、教員、地域の関係者など 2 日間で 130 名の参加がありました。

[第 1 日目] 7 月 20 日 (木) 13:10 ~ 14:40

- ① 「射水市の小学校を対象としたドローンプログラミング体験教室の拡充」
プレゼンテーション演習 (知能ロボット工学科 岩井学 教授)
- ② 「とやまの音づくりプロジェクト—富山ガラス風鈴の音色の調査—」
専門ゼミ (機械システム工学科 寺島修 准教授)
- ③ 「とやまで SDGs : なんと SDGs パートナーから学び、伝える」
プレゼンテーション演習 (環境・社会基盤工学科 中村秀規 准教授)
- ④ 「富山県立大学のブランディング—実感の湧く情報発信—」
教養ゼミⅠ (教養教育センター 清水義彦 准教授)
- ⑤ 「2023 年の COCOS」
地域協働研究会COCOS

[第 2 日目] 7 月 21 日 (金) 14:50 ~ 16:20

- ① 「富山市中心市街地の活性化について —Instagram “Reels” を用いた情報発信—」
トピックゼミⅠ (教養教育センター 濱貴子 准教授)
- ② 「学生団体 POLYGON 地域協働活動報告」
学生団体 POLYGON
- ③ 「水文観測の現状と将来に向けて」
トピックゼミⅠ (環境・社会基盤工学科 吉見和弘 准教授)
- ④ 「六渡寺海岸での漂着ゴミから考える海ゴミ対策」
トピックゼミⅠ (環境・社会基盤工学科 久加朋子 准教授)
- ⑤ 「六渡寺海岸には何故ゴミが多いのか、日本海と太平洋との比較」
トピックゼミⅠ (環境・社会基盤工学科 久加朋子 准教授)



地域で学ぶフィールドワークの様子①



【小杉旧町 (神社)】



【射水市金山】



【富岩運河】

新未来の地域リーダー制度紹介

「新未来の地域リーダー」とは



詳細はこちらから

本学では、学生の社会参画力や課題解決力の育成を図るため、地域課題解決力を養う活動に参加し、地域と連携の上、地域課題の解決に特に主体的に取り組んだ学生を、その学生からの申請に基づき審査のうえ、「新未来の地域リーダー」と認定しております。

新未来の地域リーダー認定者

令和4年度 (R5年3月)

- ①小林将 ②工学部 機械システム工学科 4年
- ③富山県水道管漏水検知システムの提案

令和5年度 (R5年12月)

- ①西本 真彩 ②看護学部 看護学科 4年
- ③地域協働研究会 COCOS での活動

- ①平野 愛奈 ②工学部 知能ロボット工学科 2年
- ③地域協働研究会 COCOS での活動

(①名前 ②所属・学年 ③活動テーマ ※②は認定時の情報です)

新未来の地域リーダー取り組み

富山県水道管漏水検知システムの提案

R4年度認定 小林 将

現在、全国的に水道管の漏水問題が深刻となっており、IoTを活用した漏水検知システムの導入が全国の自治体で進められています。富山県でも既存の漏水検知システムの導入検討を進める中で、既存のシステムは富山県用に最適化されておらず、システム導入後の運用や検知精度について課題が生じる可能性が指摘されていました。このような背景から、私は同学科の4名でグループを結成し、富山県で利用・運用が可能な漏水検知システムのあるべき姿の探索を行いました。具体的には、漏水検知システムの実証実験において、システムメーカーから提供された検知結果表示用ソフトウェアの性能検証、検知結果の



整理や考察、これからのシステムに求められる仕様の検討を行い、システムメーカーにより検知精度に違いがあることや、表示用ソフトウェアのユーザビリティに運用上の課題があることが明らかになりました。

制服をリユースする仕組みづくりを始めています

本学の立田真文研究室（環境・社会基盤工学科）では、限りある資源を有効活用した循環型社会の構築に向けた実践として、リユース制服の循環システムについて研究実践を進めてきました。今年度、射水市公募提案型市民協働事業（*1）に採択され、射水市の担当課（環境課・子育て支援課）および地域の企業や関係機関と共に、制服などをリユースし循環する仕組みづくりに取り組んでいます。

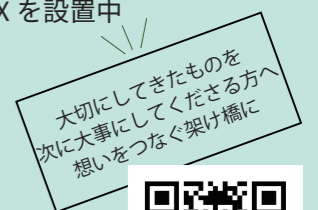


- 毎月1回（第3日曜）の譲渡会を開催中
- 市役所（本庁舎）に回収BOXを設置中

この取り組みでは、限りある資源の有効利用だけでなく、事業に関わる人たちの就労支援や、経済的に厳しい家庭の子育て支援にも繋げることを目指しています。

使わなくなった状態が良い制服類（体操服、柔道着など）をお持ちの方は回収にご協力ください。また、この取り組みにご興味がある企業・団体のご協力もお待ちしております。

*1：採択事業名「ローカル SDGs に向けた制服循環システムの構築」



詳細・問い合わせはこちらから

COCOS 活動紹介②

木工ワークショップ

9月16日（土）に開催された『ゼロイイめぐるマルシェ』は、様々な立場の人にとって「SDGsを自分事として小さなことから一緒に意識し、考える機会」となることを目指して行われました。COCOSは氷見でSDGsに力を入れている岸田木材へ伺い、木材の地産地消や、森を守るために間伐が必要なことなどを学びました。当日は、ぶんぶんごまと木端時計作りのワークショップを行い、パネルなどで学んだことを伝えました。10月28日（土）に開催された『しえるまつり』と12月17日（日）の子育て支援イベントでは、ぶんぶんごまの木工体験を行いました。3つのイベントを通して、普段関わることのない地域の方と交流できました。



都市農村交流事業農村広報アンバサダー

8月21日（月）に、『都市農村交流事業農村広報アンバサダー』の任命式に参加しました。COCOSは広報アンバサダーとなり、さまざまな農村交流事業を体験し、活動を通じて経験を活かし、「若者の視点」「若者の視点」で若者への効果的な広報活動の企画・提案を考えていきます。

秋には、氷見市漁業文化交流センターでかまぼこ絵付け体験に参加しました。普段と異なる経験を得られ、富山の文化に触れる貴重な機会となりました。今後は、都市農村事業の広報活動や、企画の提案を行う予定です。体験での気づきをもとに、若者が都市農村交流事業へ参加しやすい仕組み作りを考えていきます。



COCOSは、これから先も様々な活動を予定しています。地域の方々と交流することで、地域の課題を見つけ、解決できるよう取り組んでいきます。

地域

協働した方々の声①

大和富山店 戸田未来



私は大和富山店SNS担当です。濱トピックゼミには昨年から関わらせていただいております。今回の取り組みでは、私自身、社会人3年目で学生のみならず、くすぐったい気持ちでお引き受けたお話をしました。

今私が職場で担当しているのは広報の分野です。どうしたらお客様によりよく大和の魅力が伝わるか。毎回工夫を凝らし、あたまで悩ませているなかで、同世代の学生さんと交流し、学生さんの反応を肌で感じ、職場に帰ってから自分自身の仕事を見直すよい機会となりました。学生のみならずと実際に街に出て、取材、撮影、そして動画編集をする中で、私自身、あたらしいアイデアやひらめき、発見もありました。

インスタグラムなどのSNSは特に私たち世代にとってはもはや肌身離せないツールとなっています。そのツールを上手に活用するスキルはこれからの社会人にとっては必要不可欠な武器とも言えるかもしれません。いかに自分の推しをより効果的にPRし、反応、結果に結びつけられるか、これからも工夫、悩みの日々です。

学生のみならずも近い将来社会に出るかと思いますが、今回の活動がどこかで役に立つと嬉しいですね。

R5年8月執筆



卒業生

〜協働した方々の声②〜

看護学科 西本真彩

2024年3月卒業

約4年間、地域協働研究会COCOSにて様々な経験をさせていただけました。私が活動において一番力を入れたことは「組織内での対話」と「地域との対話」を行うことでした。「対話」は話を傾聴し合い、共感し合うことで相互理解を進め、同じ目標に向かうためのものです。私は看護学部の学生であり、看護の世界でも「対話」を行うことは重要なことであるため、COCOSの活動でも「対話」に注力しました。

「組織内での対話」では、COCOSに多学科の学生が所属していたこともあり、私にとって他学科生の考えや価値観は面白く、新たな発見ばかりでした。多様で素敵なメンバーと共に、地域の課題を起点として自分たちがどのように関われば課題解決に繋がるのか、そのためには何が必要か時間をかけて話し合いました。「地域との対話」では、協働相手の意見や考えを受容することが必要です。誰のための、何のための活動なのか、組織内の自分たち本位な考えにならないよう「対話」を通じ、本心に「協働」ができていのかを常に意識しながら取り組みました。

そして組織内・地域の双方の意見が交わるよう「対話」を重ねました。もっとも、至らない部分も多く、できない自分を悔やむこともありましたが、そのたびにメンバーと一緒に向き合ってくれたから続けることができました。何より地域の方々は、私のことを一学生としてではなく協働相手の1人として関わってくださいました。未熟な私と共に活動してくださった皆様へ心より感謝申し上げます。

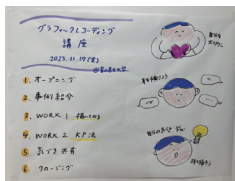


地域協働スキルアップ講座

地域協働における対話・交流で役立つスキルアップのため、昨年に引き続き、グラフィックレコーディング講座を開催しました。グラフィックレコーディングは、地域協働に限らず、研究室やサークルのミーティング、あるいは自己内省など一人用に加え、また社会における様々な場面で活かせる技術です。今回は、富山短期大学の関係者を中心とするNPO「りぼん from とやま」との合同で開催し、短大の学生や卒業生などの参加もあり、より多様性の高い交流の場にもなりました。

グラフィックレコーディング講座

第1回
2023年11月17日

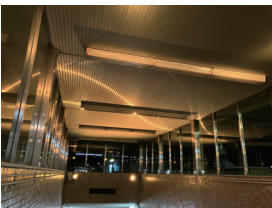


講師：反中ひろのさん「本学卒業生」（株式会社がやす）
※12月22日に第2回を開催する予定でしたが、大雪のため中止

オレンジキャンペーンin射水
〜がんばる女性をみんなで応援〜（3月1日〜10日）

3月8日の国際女性デーに合わせ、女性のエンパワーメントやジェンダー平等について啓発するキャンペーンを、射水市アランマーレ富山、本学が連携して実施しました。

今回もこれまでと同様に、アランマーレ富山応援パブリックビューイング、中央図書館での特別展、小杉駅地下道・海王丸のライトアップなどを行いました。



CBLnews
バックナンバー



公立大学法人富山県立大学 地域協働支援室
http://tpu-cbl.net
〒939-0398 富山県射水市黒河 5180
射水キャンパス（中央棟 1階 N-103）
TEL:0766-56-7500（内線 1255）FAX:0766-56-8022
E-mail:kyodo@pu-toyama.ac.jp
編集：地域協働研究会 COCOS 発行：令和6年3月

